

スクミリンゴガイ情報第3号（水稲）

令和3年12月3日
愛知県農業総合試験場
環境基盤研究部病害虫防除室

次作に向けた対策を行いましょ。

1 本年の発生状況

7月下旬の巡回調査において、スクミリンゴガイの発生ほ場率は、33.5%（平年26.9%、前年34.8%）と、県内各地で本種による被害が多発した令和2年に次いで過去10年間で2番目に高い状況でした。また、ほとんどの株が食害に遭ったほ場も報告されています。

2 スクミリンゴガイの越冬について

スクミリンゴガイは水温が14℃以下になると活動を停止し、水田や水路で土中に潜って越冬します。翌春気温が上昇し、水田に水が張られると活動を開始します。また、田植え直後にイネを食害するのは、前年からその水田内で越冬している個体であると考えられます。これらのことから、本田及び水路における越冬対策が重要です。

3 防除対策

(1) 冬期耕うん

スクミリンゴガイを物理的に破碎し、越冬量を減らすため、土壌が乾燥して硬い厳冬期（1～2月）に耕うんを行いましょ。防除を目的として耕うんを実施する際は、トラクターの走行速度を遅く、ロータリーの回転を速くし、土壌を細かく砕くように耕うんすることで破碎効果が高まります。

(2) 水路の泥上げ

スクミリンゴガイは寒さに弱い※ため、厳冬期（1～2月）に水路の泥上げを行い、寒風にさらすことで越冬量を減らすことができます。また、水路の泥上げは越冬場所をなくすことや、同時に雑草が取り除かれることで、翌年の餌をなくすことにもつながります。なお、掘り上げた泥については、未発生ほ場に持ち込まないように注意してください。※0℃環境下の場合、20～25日で死亡。

(3) ほ場の均平化

スクミリンゴガイは水中でないと摂食できず、水深が浅いと活動が制限されます。そのため、凹凸があるほ場では、田面の深いところで貝が活動しやすく集中的に食害が生じます。ほ場の傾斜や凹凸をなくすため、ほ場の均平化を行いましょ。

4 留意事項

作業後の農業機械に本種が付着し移動することで、本種の発生範囲が拡大するおそれがあります。そのため、作業を行うほ場の順番を考慮するとともに、農業機械を移動させる際は泥をしっかりと洗い落としましょ。また、今年スクミリンゴガイの被害が見られたほ場では、移植期の薬剤散布など他の防除技術の組み合わせを検討しましょ。

5 その他

スクミリンゴガイの防除対策については、農林水産省がマニュアル等（アドレス：<https://www.maff.go.jp/j/syouan/syokubo/gaicyu/siryou2/sukumi/sukumi.html>）（令和3年3月改訂）を公開していますので、参考にしてください。

冬期に耕うんを行うことで、他の病害虫における次作の発生量を減らすことにもつながります。詳しくは、10月1日発表の「水稲の秋冬期管理情報第1号（イネ白葉枯病、イネ縞葉枯病、ニカメイガ）」を参照してください。